

平成30年度 第 4 回教育委員会定例会

議決事項

件 名	提案理由	審議の状況	採決の次第
議案なし			

平成30年度第 4 回教育委員会定例会出席者

日時及び場所	出席者	
<p>平成30年7月10日（火）</p> <p>午後2時00分</p> <p>↓</p> <p>午後4時25分</p> <p>第2研修室</p>	<p>教育長 坂元 裕人</p> <p>教育委員 野村 繼治</p> <p>教育委員 田原 正人</p> <p>教育委員 中谷 いつみ</p> <p>教育委員 葛迫 幸平</p>	<p>教育総務課長 紺屋 昭男</p> <p>学校教育課長 明石 浩久</p> <p>社会教育課長 野嶋 正人</p>

# 会 議 要 旨

## 1 開 会

定刻、定足数に達しており、平成30年度第4回教育委員会定例会を開会した。

## 2 平成30年度第3回定例会会議録の承認

承認

## 3 議 事

議案なし

## 4 その他

垂水市教育委員会の事務の点検及び評価について

## 5 委員並びに教育長報告及び課長報告

## 6 閉 会

議事内容等

3 議 事	議案なし
4 その他	垂水市教育委員会の事務の点検及び評価について
教育総務課長	垂水市教育委員会外部評価委員会に提出する垂水市教育委員会の点検及び評価に関する資料、教育総務課に係る垂水市教育行政重点施策の自己点検・評価票について説明。
学校教育課長	学校教育課に係る垂水市教育行政重点施策の自己点検・評価票について説明。
社会教育課長	社会教育課に係る垂水市教育行政重点施策の自己点検・評価票について説明。
野村委員	円楽、三瓶師匠の落語会の自主文化事業について、落語会の入場料や補助金について補助金等の内訳と、平成 30 年度事業も同様に補助金がもらえるのかどうか。
社会教育課長	落語会の費用は、全体で 230 万円だった。そのうち、わが町文化事業助成金補助金が 40 万円で、入場者は 850 人で入場料は約 90 万円位で残りは市の予算から出した。普通、講演会の入場料は 5 千円位である。今年度事業も昨年度と同様に補助金をもらえる予定である。
野村委員	わかった。
田原委員	図書館の利用について、いい本とめぐりあう機会がなかなか無く、先般図書館の入り口のカウンター前にある本を借りてみて、いい本と出会えた。誰かが読んで、「感動したよ」と何か残していく、紹介するような事をしてみてはどうかと思う。
社会教育課長	本を読んで、感動したことなどを発表しあう「ビブリオバトル」というものがありますが、一昨年はビブリオバトルができたが、昨年は諸事情により開催できなかった。これから続けていこうという矢先であった。 本の利用について頭が痛いのは、利用者の固定化の改善が必要かと思っている。
中谷委員	教育総務課の教職員住宅について、教職員住宅の利用が促進されているのか、空き室が多くあるように思うという声や、もうすぐ道の駅が錦町の教職員住宅近くにできるので、「空き室を若い夫婦で子どもさんがいる人たちに貸したら小学校の児童数も増えるのに」という声も聞くが、一般の方は貸せないとは思いますがどうか。
教育総務課長	教職員住宅の入居率は 6 月 1 日現在 69.6%である。錦町や南松原町の

	<p>教職員住宅は単身者用であるため、夫婦世帯などの利用については、部屋数も少ないことから利用は認めていない。また、一般の方々へも貸し出すということもできない。</p>
中谷委員	<p>学校教育課と社会教育課に通じる、学校応援団やおもてなし隊は、すごくうまくいっていると思う。地域の方々は学校に興味を持っていて、子どもたちが少なくなる中で、高齢者の方々は、「自分たちがどうにかしないといけない」という声を聞く。学校は地域の方々を引き込んでほしいと思う。</p>
社会教育課長	<p>一昨年の学校応援団の会で、「地域は何ができるか、学校は地域に何をしてもらいたいのかが分からない。」という意見があったが、最近では、各学校、校区ごとに話をしてもらうようになって、会の中身も充実してきたことにより、校区と学校との連携関係が良くなってきている。</p> <p>一番大変なのは、学校と調整していただくコーディネーターの公民館主事さんであり、また地域の方々がそれぞれの立場で協力頂いていることはたいへんありがたい。</p>
葛迫委員	<p>子どもたちは、学校から帰ったあと忙しく、児童クラブや塾に行く子どもたちがいる。</p> <p>生涯学習は、大人がするものとなっているようだが、「ジュニアキッズ向けの生涯学習みたいなものがあれば良いのに」と思う。例えば、スポーツをする、芸術をする、本を読むなど、子どもたちが集まることができないのだろうかと思う。親、子ども、行政という中でやっていければと思う。</p>
社会教育課長	<p>委員のそのような考えが望ましいと思う。生涯学習は大人になってからということだけではなく、赤ちゃんから高齢者までと生涯学習はなっている。生涯学習社会の中で、自ら進んで学んでいく姿勢を育むということが、幼少、中高時期の一つの努力ポイントにもなる。自らが道を切り開いて、自分から勉強していくその一環で、委員からあった環境が作れば良いのではと思う。以前、スポーツクラブを作ろうという時期があったが、作れなかった。</p>
葛迫委員	<p>社会の流れというか、我々が小さい頃は青年団活動などがあり、その中でみんなが集まって活動していたがそれが無くなった。そのような塊が今後また作っていったらと思うところである。</p>
教育長	<p>他に意見がないようなので、垂水市教育委員会の事務の点検及び評価については承認された。</p>

5 委員並びに教育長及び課長報告	委員並びに教育長及び課長報告
教育長	教育委員、教育長及び各課長の報告に入る。
野村委員	<p>1. 「平成 30 年度 まちづくり集落座談会について」  6月25日(水)、今年度も協和地区の「まちづくり集落座談会」が実施された。実施期間は6月25日(月曜日)から29日(金曜日)までの5日間開催された。</p> <p>各集落の振興会長さん宅などを会場にして、夜7時から約2時間を使って行われた。開催の趣旨は、集落ごとに全員が参加して、自分たちの集落のことを語り合うというところにある。「みんなで作ろう！明るい協和を！」のスローガンの基、自助・共助の精神で、みんなで助け合って地域を活性化していこうというものである。</p> <p>座談会の内容は集落によって、それぞれ加味されるものであるが、共通した項目は先ず、自然災害についてで、特に集中豪雨関連、地震、津波、桜島の噴火対策をはじめ、青少年の育成活動については、子どもたちの急激な減少の中、「校区の子どもはみんなで守ろう」のかけ声の中、「朝読みの計画」や「夏休みの計画」など、みんなが精一杯の努力を考える。さらに、高齢者の健康な生活の維持、各種の詐欺対策、交通事故防止などと、挙げれば切りがないが、年間を通して、自助・共助の精神で取り組む地域興し、地域活性化のためのエネルギーはたいへんなものである。</p> <p>今年も、地域包括支援センターの県防災アドバイザーの村野剛氏が各会場で、「垂水市防災マップ」を使って、たいへん実りある話をしていただき、大変ありがたいことであった。</p>
田原委員	<p>1. 「境小学校合同学校訪問について」  6月11日(月)、境小学校合同学校訪問があった。学校訪問で「びっくりしたな。よかったな」ということは、落ち着いて授業に取り組めていなかった児童が、成長とともに、落ち着いて授業に取り組めるようになっていたことである。先生方の指導の賜物だと思うし、本人の努力もあったと思う。言われないと気づかないくらいしっかりと授業に取り組んでいたあの姿は、たいへん印象的だった。立派になっていた姿に喜んだ。</p> <p>2. 「瀬戸口藤吉翁記念碑除幕式・表敬演奏及びふるさとコンサートについて」  6月13日(水)、瀬戸口藤吉翁の式典に、お孫さんが参加されたということに重みを感じた。本人もたぶん感激されたのではないだろうか。いい場所に立派な記念碑ができたことで、市民の一人として、先人を敬い、誇りに思う気持ちが一層強くなった気がした。</p> <p>その後の、ふるさとコンサートも会場いっぱいのお客さんで盛り上がった。楽器演奏に負けない歌姫の美声に、会場全体が酔いしれた演奏会であった。</p>

中谷委員

3. 「わくわく・どきどき！夢教室について」

6月22日（金）、午前中の小学生の部だけに参加した。私が南種子にいたときの、柳田町長の息子さんと、柳田氏の博識と絶妙な語り口に、小学生たちが引き込まれていた。永遠の少年のような「なぜだろう。どうしてだろう」の疑問を持ち続けられる大事さ、万物に興味や関心を持つ生き方、そんなことを教えてくださり、素晴らしいと思った。子どもたちにとってはとても楽しく、ためになるひと時ではなかったかと思う。

1. 「学校訪問について」

6月は、垂水小、境小、協和小、松ヶ崎小と多くの学校を訪問させていただいた。それぞれの学校の特色を生かし、子どもたちが楽しく学校生活を送っていた。ありがとうございました。

2. 「星塚敬愛園の訪問について」

6月8日（金）、鹿屋市の星塚敬愛園に行ってきた。ハンセン病ということで、重い差別を受けてこられた方が、強く生きてこられた話をお聞きした。このことは、子どもたちにも広く話し伝えていかなければならないと思った。

3. 「柗原地区での地域の取組について」

6月19日（火）、柗原公民館で6年前に地域住民で取り組んだ案の見直しの会があり参加した。自分の地域は一人一人が力を合わせて、お互い声を掛け合う毎日の生活の大事さを感じることであった。

4. 「孫の小学校入学に関する祖父の心境について」

6月19日（火）、柗原小学校にお孫さんが通っている祖父の方とお話した。お孫さんが支援学級にいるということで、入学前からとても心配されていた。そのお孫さんが、朝になると学校を休むことなく「学校に楽しそうに行ってくれるのでうれしい。休むとは言わん。学校、学校と言っている。学校の先生ともうまくいっている。良かった、良かった。」とおっしゃり、その方は私に、「祖父は、これからうんと、がんばります。」と話してくださいました。心配事が多くあるのだろうと思われるが、今現在のお孫さんとのことを、愛され、認められているからこそ、言葉の数が増えて、おしゃべりする成長ぶりを喜んでいらっしゃるのだと思った。「祖父は、がんばります。」と私におっしゃってくださいました宣言を、私も地域住民として、応援宣言をその方にしました。私だけでなく「応援団はたくさんいるから大丈夫だから。」とお伝えした。

5. 「わくわく・どきどき！夢教室について」

6月22日（金）「わくわく・どきどき！夢教室」があった。柳田理科雄先生の「科学する心は、空想する心から」、おもしろい大実験だった。

頭、体、手、足、全体を使って、身振り、手ぶりの易しい、詳しい話に引き込まれた。「なぜだろう？」という疑問を持って生活しなさいとの教えに、また、子どもたちの好きなアニメのキャラクターを前に出され教えてくだ

<p>葛迫委員</p>	<p>さる、「わくわく・どきどき！」の時間がとても楽しかった。ありがとうございました。</p> <p>1. 「垂水小学校春季大運動会について」</p> <p>5月20日（日）、坂元教育長の、すべての児童にスポットが当たるような「やればできる」「自分は役に立つ」といった教育指導の下に始まった「子どもたちの夢と感動を育む絵画ギャラリー」のセレモニーで、出品した子どもたちに問題を出した。「色の名前は『赤』『橙』『黄』『黄緑』『緑』『青』『紫』『黒』『白』といった名詞で表現します。しかし、色の名前で形容詞になる色が4つあります。なぜ形容詞になるのか調べてください。」と出題し、「いろいろ考え、辞書や本などで調べ学校の校長先生に、分かったことを原稿用紙1枚以内にまとめて提出してください。調べた本の名前も書いてくださいね」ということを伝えた。</p> <p>すると、新城小学校の大山美海さんから「黒い・赤い・青い・白いのひみつ」と題した作文が届き、うれしかった。</p> <p>私は、大山美海さんに対し、「『黒い・赤い・青い・白いのひみつ』を読ませていただきました。美海さん、本を探すことは難しかったですね。しかし、よく調べてくれたことに感謝し、うれしく思います。「林先生の初耳学」という番組があるのですね。私もネットで調べてみましたが、なかなか見つかりませんでした。美海さんはよく見つけましたね。ここのネットに示されている日本の古い書物『古事記』や『日本書紀』には、『黒い・赤い・青い・白い』といった言葉がよく出てきます。色という名詞ではなく『黒い盾・赤い玉・青い幣(ぬさ)・白い猪』というような形容詞として、黒は暗い(くらし)に、赤は明るい(あかし)に、青は淡い(あわし)漠然としたに、そして白は頭かに明白(しろし)な色として名詞を装飾する言葉として使われていることが分かります。また、古代の日本人は方角や季節にもこの4色を使い、暮らしや生活に託したのですね。</p> <p>日本には『四神』という言葉が存在します。色のついた4つの神も同じように暮らしや生活につながっています。機会があったらこのことについても調べてみると楽しいですよ。また、『古事記』や『日本書紀』の翻訳版もあります。呼んでみてね。美海さん、今日は色について調べてくれてありがとうございました。私は、以下の本を参考資料としました。『日本の古典を読む①古事記』小学館発刊。『色彩学のすすめ』尾登誠一著。『日本の色辞典』吉岡幸雄著。『日本美術館』小学館発行。お礼に、絵が楽しくなる道具を差し上げます。これからも頑張ってくださいね。」という返事を出そうと思っている。</p> <p>こうして「探してみる。その本を読んでみる。考えてみる。理解する。それを表現して発表する。」その一連の作業から、興味を持ってくれればいいなと思っており、子どもたちがそうあってくれると信じている。</p>
<p>教育長</p>	<p>1. 「学校は安心・安全か？ということについて」</p> <p>西日本豪雨、大阪北部地震の被害を受け、改めて考えてみた。ブロック塀のこと、大雨による浸水のことなど、日頃からの備えはもちろんのこと、災害マニュアル等もあると思うが、それが機能するのかということ</p>



を、管理職も交えながら話し込んでいかなければならないのではないかと考えるところであった。併せて、地域で情報共有し「どこが危ない」ということを、保護者も地域も、その中心である子どもたちが分かっていることが大事なのではと思っている。改めて、安全点検等での危険箇所について、市でやらなければいけないところについては、補修、修繕等を行っていきたい。

## 2. 「管理職研修会の充実について」

管理職研修会では、喫緊の課題であったり、時期的なことであったり、中・長期的なスパンで取り組んでほしいことであったりなどを指導する機会があるが、特に研修会で言っていることは、学校の安心・安全というところを大事にしてもらいたいということと、併せて、先ずは校長、教頭が明るくて、元気であってほしいということである。それがきっと職員に、子どもたちに、保護者、地域に還元されるものと思っている。今後も管理職研修会が開催されるが、教育委員の皆様への報告会も計画されており、今年は趣向を変えて、校長先生方が元気になるような報告会を企画していきたいと考えている。

## 3. 「学校訪問について」

学校訪問に関して、改めて先生方が一生懸命頑張っていること、子どもたちが一生懸命学習に取り組んでいることを実感したところである。

欲を言うならば、それが結果となってほしいと思った。そのことが結果に結びつくことで、子どもも教職員も励みとなり、更に成績も向上していくのではないかと思う。教育委員の皆様にごいただいた、御意見や励ましの言葉は、きっとこれからの学校運営に生かされていくものと思っている。

教育総務課長  
学校教育課長  
社会教育課長

6月5日から7月10日までの主な行事等について報告。  
併せて、8月10日までの予定についてお知らせした。

6 閉 会